

中間財務諸表

中間貸借対照表 (資産の部)

(単位：百万円)

区 分	前中間会計期間 (2020年9月30日)	当中間会計期間 (2021年9月30日)
現金預け金	832,466	938,986
買入金銭債権	21,090	26,654
商品有価証券	6	44
有価証券 ※1,※2,※8,※11	1,275,023	1,333,105
貸出金 ※3,※4,※5,※6,※7,※8,※9	2,964,531	3,062,462
外国為替 ※7	10,680	9,449
その他資産	61,910	56,155
その他の資産 ※8	61,910	56,155
有形固定資産 ※10	33,612	33,861
無形固定資産	4,183	3,607
前払年金費用	8,809	9,488
支払承諾見返	20,909	21,655
貸倒引当金	△ 14,304	△ 14,109
資産の部合計	5,218,921	5,481,362

(負債及び純資産の部)

(単位：百万円)

区 分	前中間会計期間 (2020年9月30日)	当中間会計期間 (2021年9月30日)
預金 ※8	4,300,776	4,508,928
譲渡性預金	97,360	83,389
コールマネー	12,283	27,722
債券貸借取引受入担保金 ※8	78,433	62,198
借入金 ※8	388,429	426,666
外国為替	249	856
その他負債	47,457	49,609
未払法人税等	1,049	1,019
リース債務	676	1,058
資産除去債務	198	221
その他の負債	45,531	47,309
睡眠預金払戻損失引当金	292	185
偶発損失引当金	157	110
株式報酬引当金	98	116
繰延税金負債	6,266	13,010
再評価に係る繰延税金負債	5,103	5,082
支払承諾	20,909	21,655
負債の部合計	4,957,818	5,199,532
資本金	37,322	37,322
資本剰余金	24,920	24,920
資本準備金	24,920	24,920
利益剰余金	162,166	169,865
利益準備金	12,402	12,402
その他利益剰余金	149,764	157,463
固定資産圧縮積立金	273	273
別途積立金	148,661	148,661
繰越利益剰余金	829	8,528
自己株式	△ 2,070	△ 2,029
株主資本合計	222,338	230,079
その他有価証券評価差額金	35,331	43,615
繰延ヘッジ損益	△ 4,585	178
土地再評価差額金	7,976	7,935
評価・換算差額等合計	38,722	51,730
新株予約権	41	21
純資産の部合計	261,102	281,830
負債及び純資産の部合計	5,218,921	5,481,362

中間損益計算書

(単位：百万円)

区 分	前中間会計期間 (2020年9月中間期)	当中間会計期間 (2021年9月中間期)
経常収益	30,295	32,285
資金運用収益	19,693	20,280
(うち貸出金利息)	(13,459)	(13,154)
(うち有価証券利息配当金)	(5,941)	(6,688)
役務取引等収益	4,753	5,393
その他業務収益	1,913	3,636
その他経常収益 ※1	3,935	2,975
経常費用	31,586	23,199
資金調達費用	1,432	831
(うち預金利息)	(406)	(229)
役務取引等費用	2,086	2,047
その他業務費用	1,053	2,591
営業経費 ※2	17,526	16,577
その他経常費用 ※3	9,486	1,151
経常利益又は経常損失 (△)	△ 1,290	9,086
特別利益	0	0
特別損失	20	42
税引前中間純利益又は税引前中間純損失 (△)	△ 1,309	9,044
法人税、住民税及び事業税	1,387	1,668
法人税等調整額	△ 812	1,134
法人税等合計	574	2,803
中間純利益又は中間純損失 (△)	△ 1,884	6,240

中間株主資本等変動計算書

前中間会計期間（2020年9月中間期）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
				固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	37,322	24,920	24,920	12,402	273	144,661	7,897	165,234
当中間期変動額								
剰余金の配当							△ 1,183	△ 1,183
別途積立金の積立						4,000	△ 4,000	—
中間純損失（△）							△ 1,884	△ 1,884
自己株式の取得								
自己株式の処分								
土地再評価 差額金の取崩								
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）								
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	4,000	△ 7,067	△ 3,067
当中間期末残高	37,322	24,920	24,920	12,402	273	148,661	829	162,166

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△ 1,999	225,478	14,858	△ 7,447	7,976	15,387	41	240,906
当中間期変動額								
剰余金の配当		△ 1,183						△ 1,183
別途積立金の積立		—						—
中間純損失（△）		△ 1,884						△ 1,884
自己株式の取得	△ 71	△ 71						△ 71
自己株式の処分		—						—
土地再評価 差額金の取崩		—						—
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）			20,473	2,861	—	23,335	—	23,335
当中間期変動額合計	△ 71	△ 3,139	20,473	2,861	—	23,335	—	20,195
当中間期末残高	△ 2,070	222,338	35,331	△ 4,585	7,976	38,722	41	261,102

当中間会計期間（2021年9月中間期）

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
				固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	37,322	24,920	24,920	12,402	273	148,661	3,244	164,581
会計方針の変更による 累積的影響額							△ 55	△ 55
会計方針の変更を反映 した当期首残高	37,322	24,920	24,920	12,402	273	148,661	3,189	164,526
当中間期変動額								
剰余金の配当							△ 887	△ 887
別途積立金の積立								
中間純利益							6,240	6,240
自己株式の取得								
自己株式の処分							△ 7	△ 7
土地再評価 差額金の取崩							△ 7	△ 7
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）								
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	—	5,339	5,339
当中間期末残高	37,322	24,920	24,920	12,402	273	148,661	8,528	169,865

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△ 2,071	224,752	42,321	2,720	7,928	52,971	41	277,765
会計方針の変更による 累積的影響額		△ 55		4		4		△ 51
会計方針の変更を反映 した当期首残高	△ 2,071	224,697	42,321	2,724	7,928	52,975	41	277,713
当中間期変動額								
剰余金の配当		△ 887						△ 887
別途積立金の積立		—						—
中間純利益		6,240						6,240
自己株式の取得	△ 0	△ 0						△ 0
自己株式の処分	43	36						36
土地再評価 差額金の取崩		△ 7						△ 7
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）			1,294	△ 2,546	7	△ 1,245	△ 19	△ 1,264
当中間期変動額合計	42	5,381	1,294	△ 2,546	7	△ 1,245	△ 19	4,116
当中間期末残高	△ 2,029	230,079	43,615	178	7,935	51,730	21	281,830

（重要な会計方針）

1.商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

2.有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

3.デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

4.固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、定率法（ただし、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物：10年～50年

その他：5年～15年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法により償却しております。

5.引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部店及び審査所管部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は10,894百万円であります。

(2) 役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：各発生時に全額損益処理

数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌事業年度から損益処理

(4) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

(5) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り必要と認める額を計上しております。

(6) 株式報酬引当金

株式報酬引当金は、役員報酬BIP信託による当行株式の交付に備えるため、株式交付規定に基づき、役員に割り当てられたポイントに応じた株式の給付見込額を計上しております。

6.外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、主として中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。なお、その他有価証券（債券）の換算差額については、為替による影響も含めてその他有価証券評価差額金として処理しております。

7.ヘッジ会計の方法

(1) 金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、一部の資産について、ヘッジ対象（日本国債及び米国債）とヘッジ手段（金利スワップ取引）を直接対応させる個別ヘッジによる繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価については、ヘッジ手段とヘッジ対象の条件がほぼ同一であることから、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動を相殺しているため、有効性の評価を省略しております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日）に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権等（外国証券及び外貨貸出）に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

8.その他中間財務諸表作成のための重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

9.その他採用した重要な会計方針

投資信託（除くETF）の解約・償還に伴う差損益について、投資信託全体で益の場合は「有価証券利息配当金」に計上し、損の場合は「その他業務費用」の「国債等債券償還損」に計上しております。

当中間会計期間は、「有価証券利息配当金」に投資信託の解約・償還益1,345百万円を計上しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当中間会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当中間会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当中間会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

なお、当中間財務諸表に与える影響は軽微であります。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第8項に従いデリバティブ取引の時価算定における時価調整手法について、市場で取引されるデリバティブ等から推計される観察可能なインプットを最大限利用する手法へと見直ししております。当該見直しは時価算定会計基準等の適用に伴うものであり、当行は、時価算定会計基準第20項また書きに定める経過的な取扱いに従って、当中間会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を当中間会計期間の期首の利益剰余金に反映しております。

この結果、当中間会計期間の期首の繰越利益剰余金が54百万円減少、その他資産が132百万円減少、その他負債が60百万円減少、繰延税金負債が22百万円減少、繰延ヘッジ損益が4百万円増加、1株当たり純資産額が1円71銭減少しております。

(追加情報)

(役員報酬 B I P 信託)

役員に対し信託を通じて自社の株式を交付する取引について、中間連結財務諸表「注記事項（追加情報）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大による貸倒引当金への影響)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う経済活動停滞の影響について、中間連結財務諸表「注記事項（追加情報）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(中間貸借対照表関係)

- ※1. 関係会社の株式の総額
株 式 2,373百万円
- ※2. 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。
28,000百万円
- ※3. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。
破綻先債権額 638百万円
延滞債権額 30,348百万円
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未取利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未取利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未取利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- ※4. 貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。
3カ月以上延滞債権額 55百万円
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- ※5. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。
貸出条件緩和債権額 28,991百万円
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- ※6. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。
合計額 60,034百万円
なお、上記3. から6. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- ※7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2020年10月8日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。
12,122百万円

- ※8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	480,729百万円
貸出金	74,887百万円
計	555,617百万円

担保資産に対応する債務

預金	12,007百万円
債券貸借取引受入担保金	62,198百万円
借入金	415,973百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券	399百万円
その他（金融商品等差入担保金）	30,000百万円

また、子会社の借入金等の担保に供している資産はありません。

なお、その他の資産には、上記のほか、金融商品等差入担保金、保証金及び敷金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

金融商品等差入担保金（為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として差し入れているものを除く）	5,924百万円
---	----------

保証金及び敷金	1,629百万円
---------	----------

- ※9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	1,032,915百万円
うち原契約期間が1年以内のもの （又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）	961,271百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※10. 有形固定資産の圧縮記帳額
圧縮記帳額 2,452百万円
（当中間会計期間の圧縮記帳額）（一百万円）

- ※11. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額
24,503百万円

(中間損益計算書関係)

- ※1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。
貸倒引当金戻入益 1,336百万円
株式等売却益 1,046百万円
償却債権取立益 191百万円
- ※2. 減価償却実施額は次のとおりであります。
有形固定資産 577百万円
無形固定資産 804百万円
- ※3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。
貸出金償却 1,012百万円